

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300087	事業の開始年月日	平成21年5月1日	
		指定年月日	平成21年5月1日	
法人名	株式会社 日本アメリティライフ協会			
事業所名	花物語 たかつ			
所在地	( 213-0031 ) 神奈川県川崎市高津区宇奈根635-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月11日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方の持っている力、能力を引き出し安心・安全に生活が送れるよう、職員には研修等により日々のケアに生かせるようにすること、家族よりの意向を理解し考慮すること、地域とのかかわりや交流により楽しみを見い出すことで支えあい個人の支援に努めている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年9月30日	評価機関 評価決定日	平成26年11月13日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所概要】</b> JR南武線久地駅から12分、大通りから少し入った静かな住宅街にある。鉄筋3階建ての2、3階部分が当事業所である。メディカルヴィレッジにあるグループホームで、往診医のクリニック、調剤薬局が向かいにあり、医師などがすぐに駆けつけられる。周辺には他社のサービス付き高齢者向け住宅、同一法人の小規模多機能型居宅介護を併設するグループホームがある。多摩川の土手からの風景は素晴らしく、事業所屋上から世田谷区と多摩川の花火大会を同時に見ることができる。</p> <p><b>【利用者の笑顔を何よりも大切に】</b> 事業所理念の実現のためには「笑顔」が重要と考えている。利用者の笑顔、家族の笑顔、職員の笑顔を基本に、明るくゆったりした生活を目指している。利用者とのちょっとした会話から利用者の思いを聞き取り、その実現に向けて創意工夫している。そのための研修を常に実施している。利用者の笑顔あふれる写真を案内スペース等に掲示している。</p> <p><b>【町内会などとの関わり】</b> 近隣在住の職員が多いこともあり、町内会などと良い関係が築けている。屋上での花火大会鑑賞会、宇奈根町会納涼大会などで親睦を深めている。町内会の「例大祭」では、事業所敷地内にお神輿に来てもらい町内の方々と交流を深めるなど、行事を通じて地域との連携に積極的に取り組んでいる。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語たかつ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つである「お互いを支えあって」は職員、家族、地域との関りも含めており、その方らしさを受け止め、気付きのある生活ができるよう努めている。	利用者を笑顔にするためには職員が笑顔になることが重要と考えている。申送り時に唱和をし、キッチンに貼り出して確認している。利用者について気づきがあった時は職員間で話し合い、共通認識を持つようにしている。利用者の希望を実現できるものは即実行するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に積極的に参加。地域交流に利用者にも役割を持ってもらう防犯パトロール（散歩）も継続している。施設行事（納涼祭等）にも地域の住民が参加されている。	町内会に加入し、納涼祭などに参加している。防犯パトロールは散歩を兼ね、1時間程度、週2回、3コース実施している。事業所庭での納涼祭、花火大会、バーベキューに、子供や近所の方数名の参加があった。ボランティアは福祉専門学校学生によるリクレーションやビーズの腕輪作りなどを受け入れており、地域の方も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加し、利用者と触れ合いの機会を持っていただくと共に、認知症の人を理解いただくよう努めている。施設の行事に参加して頂くことにより、実際に過ごしている姿を見て頂いたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告を通し、日頃の生活や過ごし方などを理解していただく。参加利用者様から意見をいただきサービスの提供に反映している。	2か月に1回、近隣の同一法人グループホームと共同開催している。参加者は町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者、事業所管理者などである。最近では、納涼祭に関して、地域の老人クラブと高齢者の情報交換ができた。今後も継続していく意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高津区の地域包括支援センターや高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議の案内や相談・情報交換している。	高津区高齢障害課高齢者支援担当や地域包括支援センターを定期的に訪問し、部屋の空き情報、行事案内などを報告、相談している。支援担当や高津区社会福祉協議会からの情報提供により、入居が決まったケースがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて職員への指導を継続している。身体拘束を行っている利用者はいません。必要に応じて、家族と十分話し合いを行っていきま。館内の施錠は行ってはいないが、1階のエントランスは防犯のため職員が閉鎖をしている。	利用者に自由に行き来してもらうため、ユニット間の施錠はしていない。職員が利用者の不在を確認した場合はすぐに2階、3階で確認する体制ができている。言葉の拘束については、ユニットでミニ研修を実施し、内容を互いに伝達している。気づいたことについてはその場、または朝礼で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、会議にて虐待について学ぶ場を設けたりしています。職員同士で情報交換し虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で職員への周知を行っている。必要に応じて関係者と話し合い、成年後見人の手続きをとっている方もいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、特に話し合いの時間を多く持ち、お互いに納得の上で入居いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご様子の手紙発送と事務所前に意見書の設置がある。家族より他利用者と一緒に欲しいとの要望があり、運営推進会や職員間にて話し合い意見の反映している。朝礼挨拶や体操など取り入れた。	利用者・家族の意見の反映事例としては、朝の10分間体操の採用、エプロンに刺繍で名前をつけ職員の名前がわかるようにする、花壇を整理して花を植えられるようにする、浴室の手すりが滑りやすいので手すりに滑り止めテープを巻く、などがある。「気づきボックス」を設置しており、食材が堅いという意見に対応した。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会、社員会を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めている。行事について検討し、外出の機会を多くとの提案あり、企画を立て定期的に外出できている。	草木の植栽の経験がある職員の発案で、花壇を整理して、車椅子の利用者も一緒に手入れができる花壇にした。そこで花を育てて、利用者は草むしりなどを行っている。「花守」担当は真夏に飾る生花を週に2度変える。新聞の折り込みチラシを読んで、好みのせんべいを食べたいという利用者の希望を職員が受け止め、銘菓をおやつに用意した。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件など考慮し雇入れを交わしている。資格手当や土日祝日手当の支給、資格取得支援の奨学金制度もあり整備できている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にはアセスメントをしっかりととり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、GHが適切かどうかを考慮して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、支援できるよう、協力し合いながら生活できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の意見も反映できるようにし、又、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の自宅への定期的な外出・外泊し過ごされる方や、家族行事(雛祭、七夕等)に必ず参加される方など、大切な家族との絆や馴染みの関係が途切れないように、支援に努めている。	家族の訪問は少ない方でも月1回はある。家族には自由に過ごしてもらい、職員とも情報交換をしている。事業所付近に住んでいる方も多く、友人が訪問する機会がある。家族の協力を得て小学校の同窓会に参加した方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会、季節の行事等では、入居者様同士の親睦を図るため合同で行っている。違うフロアでも気軽に会話ができるよう、席の工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際は、必要とする情報や支援を本人・家族に提供するようにし、入院があれば見舞いも行き、手紙の発信により、良い関係性を継続できるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その時々には食べたい物があれば買い物に行く等対応している。こだわりの品は自分で選んでいただくなど、支援すると共に個人の自立性を大切にしている。	利用者の思いや気持ちを伝えてもらえるよう、声かけなどに工夫している。髭剃りはT字カミソリを使う、好みの洗顔用せっけんを使うなど、利用者の自主性を重んじている。職員が見守りながら、自分でできることは自分でしてもらう。時計が壊れた、靴底が減ったなどの声があると、利用者と一緒に馴染みの店へ買い物に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や生活環境など、職員間で情報共有し入居してからも、今までの生活習慣が可能な限り継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、職員間で話し合い対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為にも、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を多く得て、作成にあたっている。	介護計画は3階はケアマネジャー、2階は施設長が作成する。カンファレンスを居室担当などと実施し、家族、医師、看護師などにも相談する。経過記録を毎日つけ、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。サービス担当者会議で職員、家族、医師、看護師の意見を取り入れて、介護計画は通常6ヶ月で、急変時にはその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな情報や気づきを残す事が職員間の共通理解、共通ケアとなり、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービスは何であるかを考え、次につなげるサービスがあればつなげていくように取りくんでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや、初詣に地域の神社へ参拝しています。住み慣れた地域の行事や行きなれた場所へ行くことができる支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診を受けている。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者全員が事業所の向かいの協力医による往診を月2回受けている。往診は火曜日が主だが、夜間を含め、いつでも可能である。事業所はメディカルビレッジに所在しており、歯科医、薬局も同一敷地内にある。歯科医は隔週金曜日に来所する。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護職員による看護経過記録紙をもとに、職員への適切な指導を行う。主治医との共通の用紙でもあり連携できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のお見舞いや家族との連絡を取る事により、本人の状態を把握するよう努めている。医師の説明等に同席し医療従事者とも関係し支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わしている。家族の意向を確認している。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいる	契約時に利用者や家族に「利用者の状態が重度化した場合の対応に関する指針」を説明し、同意を得ている。本部の年1回の「ターミナルケア」研修に参加し、スタッフ会議などで報告して共有を図っている。現在まで看取りの事例はない。	利用者が毎年高齢化する中、ターミナルケアの実施に備え、看取りを経験した同一法人職員、医師、看護師などから具体的な事例研修を受けるなどの取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間時火災・日中災害火災想定で、消防署指導で訓練を実施。災害時応援等の協力を地域町内会、近隣施設から得ている。災害時備蓄品も備えている。	年2回（5月、10月）、消防訓練を実施した。うち1回は消防署が立ち会った。東日本大震災の時の動きを参考にして避難誘導等を検証している。町内会の方にも参加を得ている。緊急連絡網を作成し、事務所に貼付してある。災害用備蓄は利用者スタッフ用に、3日分の食事、水、紙おむつなどをストックしている。	

自己評価	外部評価	項 目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を常に意識し、言葉使いに配慮している。着脱の順番も個人を尊重し対応している。介助拒否があり移乗難しい方は声かけ等行い立位の工夫をしている。	一人ひとり、その人らしさが違うので、衣類などの着付けは利用者の意思に任せている。介助されることを嫌がる場合は利用者を尊重し、時間を置いたり、対応する職員を変えている。個人情報を含む書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為、言葉や他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態の支障にならない限り、自己決定できる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣や配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先している。就寝時間も体調等に配慮し時間は決めていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意志や希望を尊重しながら、季節やTPOに合った身だしなみができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、食事の準備・配膳・下膳・片付けなどを職員まかせでなく協力して作業を行うよう心掛けている。おやつ作りや外食なども楽しんでいる。	10分程度の口腔体操をしてから食事を始めている。利用者が自主的に、野菜の皮むき、配膳、片付けの手伝いをしている。月1回の外出時には、職員が手作りした弁当を楽しんでいる。また外食を月1回実施している。利用者の希望を聞いて焼肉、和食など好みに合わせている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っている。食事量減少時は他食品や調理での工夫で補う。水分は時間や品物を変え補給している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践している。毎食後、職員による声掛けや介助により、利用者の口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録により排泄パターンを把握している。トイレでの排泄が出来るよう、誘導や声掛けを行い、個別ケアに努めている。	自立の利用者がほとんどのため、個人記録のチェック表を参考に声掛けし、夜間は見守りしている。利用者の一日の流れをつかみ、家族に確認したり、データを取り対応法を変更したりして、支援している。同性介助を基本とし、職員との相性を考慮しながら実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めている。経過について主治医への報告を行い、指示を貰う。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛けを工夫している。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導をしている。入浴剤やゆず、菖蒲湯でも楽しんでいる。	基本は週2回だが、希望があればいつでも入浴できる。風呂は家庭用のバスタブだが、両足を延ばしてゆっくり入れる大きさである。脱衣所にはエアコンがあり、浴室との温度差が生じないように配慮している。1対1の対応で、同性介助が基本である。菖蒲湯など季節を感じられる入浴を心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠して頂けるよう、日中のお過ごしにも考慮し支援している。又、話相手になる事で安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めている。パトロールも散歩ではあるが、近隣の防犯として役にたっている事を入居者には伝えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援している。入居者様のその日の希望にそり近隣の散歩を行っている。コンピューターやレジアエースを使用し、森林公園やばら苑、相模原来た公園へ出かけた。	防犯パトロールで近所の多摩川の川原に出かけている。バラ園散策、梨もぎ取りなど外出機会の創出をしている。ピロティーでのバーベキューや花壇の整理をして、外へ出る機会を作っている。多人数が乗車できるコンピューターバスを利用して、相模原北公園などへの遠出やミニバンを利用して近くの森林公園に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主に事業所で行っているが、近くのスーパーや商店での買い物が楽しめるよう支援している。自己管理にて所持している方もいて見守って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用や手紙のやり取りなど、御本人の状況に応じて可能な限り対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とフロアには毎週季節の花を飾り楽しんでいる。フロアの壁には季節の絵や思い出の写真や本人作品等飾り、通るたびに会話が生まれています。	利用者の生活の様子を写した写真を職員がパソコンソフトを利用してアレンジし、フロアに掲示している。個人スナップコーナーがあり、家族がお気に入りの写真を持ち帰っている。リビングなどには花を始め、季節を感じる飾りつけをしている。モップ掛けや手すりなどの清掃は毎日、ワックス掛けなどは3か月に1回実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてくつろいだり、談話をしている場面をよく見かけます。ご本人の意思を尊重し自由に席を移動して過ごしていただいている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、安心して居心地よく生活できるよう、家族と一緒に工夫をしている。	居室の出入り口には利用者が分かるように花の名前と各自の写真を入れた木のプレートサインが掛けられている。居室にはベッド、エアコン、洗面台、クローゼット、温湿度計が備え付けられている。利用者はテレビ、たんす、椅子、机、家族の写真、利用者の作品など、好みのものを持ち込んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援している。			

事業所名	花物語たかつ
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つである「お互いを支えあって」は職員、家族、地域との関りも含めており、その方らしさを受け止め、気付きのある生活ができるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に積極的に参加。地域交流に利用者にも役割を持ってもらう防犯パトロール（散歩）も継続している。施設行事（納涼祭等）にも地域の住民が参加されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加し、利用者とは触れ合いの機会を持っていただくと共に、認知症の人を理解いただくよう努めている。施設の行事に参加して頂くことにより、実際に過ごしている姿を見て頂いたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告を通し、日頃の生活や過ごし方などを理解していただく。参加利用者様から意見をいただきサービスの提供に反映している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高津区の地域包括支援センターや高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議の案内や相談・情報交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて職員への指導を継続している。身体拘束を行っている利用者はいません。必要に応じて、家族と十分話し合いを行っていきます。館内の施錠は行ってはいないが、1階のエントランスは防犯のため職員が閉鎖をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、会議にて虐待について学ぶ場を設けたりしています。職員同士で情報交換し虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で職員への周知を行っている。必要に応じて関係者と話し合い、成年後見人の手続きをとっている方もいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、特に話し合いの時間を多く持ち、お互いに納得の上で入居いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご様子の手紙発送と事務所前に意見書の設置がある。家族より他利用者と一緒に関心が高いとの要望があり、運営推進会や職員間にて話し合い意見の反映している。朝礼挨拶や体操など取り入れた。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会、社員会を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めている。行事について検討し、外出の機会を多くとの提案あり、企画を立て定期的に外出できている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件など考慮し雇入れを交わしている。資格手当や土日祝日手当の支給、資格取得支援の奨学金制度もあり整備できている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にはアセスメントをしっかりととり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、GHが適切かどうかを考慮して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、支援できるよう、協力し合いながら生活できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の意見も反映できるようにし、又、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の自宅への定期的な外出・外泊し過ごされる方や、家族行事(雛祭、七夕等)に必ず参加される方など、大切な家族との絆や馴染みの関係が途切れないように、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会、季節の行事等では、入居者様同士の親睦を図るため合同で行っている。違うフロアでも気軽に会話が出るよう、席の工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際は、必要とする情報や支援を本人・家族に提供するようにし、入院があれば見舞いも行き、手紙の発信により、良い関係性を継続できるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その時々には食べたい物があれば買い物に行く等対応している。こだわりの品は自分で選んでいただくなど、支援すると共に個人の自立性を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や生活環境など、職員間で情報共有し入居してからも、今までの生活習慣が可能な限り継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、職員間で話し合い対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為にも、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を多く得て、作成にあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな情報や気づきを残す事が職員間の共通理解、共通ケアとなり、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービスは何であるかを考え、次につなげるサービスがあればつなげていくように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや、初詣に地域の神社へ参拝しています。住み慣れた地域の行事や行きなれた場所へ行くことができるよう支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月2回の定期往診を受けている。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護職員による看護経過記録紙をもとに、職員への適切な指導を行う。主治医との共通の用紙でもあり連携できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のお見舞いや家族との連絡を取る事により、本人の状態を把握するよう努めている。医師の説明等に同席し医療従事者とも関係し支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わしている。家族の意向を確認している。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間時火災・日中災害火災想定で、消防署指導で訓練を実施。災害時応援等の協力を地域町内会、近隣施設から得ている。災害時備蓄品も備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を常に意識し、言葉使いに配慮している。着脱の順番も個人を尊重し対応している。介助拒否があり移乗難しい方は声かけ等行い立位の工夫をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為、言葉や他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態の支障にならない限り、自己決定できる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣や配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先している。就寝時間も体調等に配慮し時間は決めていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意志や希望を尊重しながら、季節やTPOに合った身だしなみができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、食事の準備・配膳・下膳・片付けなどを職員まかせでなく協力して作業を行うよう心掛けている。おやつ作りや外食なども楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っている。食事量減少時は他食品や調理での工夫で補う。水分は時間や品物を変え補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践している。毎食後、職員による声掛けや介助により、利用者の口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録により排泄パターンを把握している。トイレでの排泄が出来るよう、誘導や声掛けを行い、個別ケアに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めている。経過について主治医への報告を行い、指示を貰う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛けを工夫している。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導をしている。入浴剤やゆず、菖蒲湯でも楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠して頂けるよう、日中のお過ごしにも考慮し支援している。又、話相手になる事で安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めている。パトロールも散歩ではあるが、近隣の防犯として役にたっている事を入居者には伝えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限り外出を支援している。入居者様のその日の希望にそり近隣の散歩を行っている。コンピューターやレジエースを使用し、森林公園やばら苑、相模原来た公園へ出かけた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主に事業所で行っているが、近くのスーパーや商店での買い物を楽しめるよう支援している。自己管理にて所持している方もいて見守って対応している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用や手紙のやり取りなど、御本人の状況に応じて可能な限り対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とフロアには毎週季節の花を飾り楽しんでいる。フロアの壁には季節の絵や思い出の写真や本人作品等飾り、通るたびに会話が生まれています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてくつろいだり、談話をしている場面をよく見かけます。ご本人の意思を尊重し自由に席を移動して過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、安心して居心地よく生活できるよう、家族と一緒に工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援している。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所名

花物語たかつ

作成日

26年 11月 7日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	年一回のターミナルケアについて研修を行っているが、事例がなく、現在いるスタッフに看取りの経験者がいない。	ターミナルケアに関する研修を充実させ、実際に行う場合に備え、スタッフの心構えを整えておく。	外部研修に職員を参加させる。看取りを経験した他施設の記録を参考にし、看護婦による事例研修年2回行う。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。